

平滑推移アプローチを用いた金利期間構造モデル

棕木伸吾*

大阪大学経済学研究科

大屋幸輔†

大阪大学経済学研究科

概要

本稿ではマクロファイナンスモデルに平滑推移する平均を組み込んだモデルを提案する。マクロファイナンスモデルのパラメータ推定は、パラメータ数の多さとモデルの複雑な非線形構造により困難を伴う。金利の観測誤差に対して Chen and Scott (1995) で提案された強い仮定を置く研究が多く見られるが、仮定を緩めたうえで Hamilton and Wu (2012) の二段階推定法を適用した。推定の結果、イールドカーブに現れるこぶ (hump) を捉えることに成功した。また、平滑推移を組み込んだモデルにおいても、潜在変数はイールドカーブの水準として解釈できる。レジームは 1999 年 6 月を中心に 1985 年から 2000 年代後半にかけてゆっくりと推移していることが確認された。

キーワード: マクロファイナンス、平滑推移モデル

JEL 分類番号: C13, C32

*E-mail: pgm010ms@student.econ.osaka-u.ac.jp

†E-mail: oya@econ.osaka-u.ac.jp